



貴翰而後 霖雨之候

益世多祥 至敬之至

本目下旬の 講話有之由

未名之序 之修基

本世多分集方 以盡力

在取取之旨 有取取之旨

古隈伯の 深教書と差

出す登干、 人為調下

差出取ら せしめし二付所

相斗口 悪うしめと 丸後

即しが 名古辰平の 心

年カ三百年 外本と格三入

宗付本より 多し為ら 一用

豪者、冬 旬 巡廻の 巻

成功と 期 十一年 止

名目と 因行 下 有

...



有り 成功と期すは
常にも困難あり
と云ふ愛慕の心
殊に大隈伯の所依託
事と際ノ差出まらば
亦こ世に臨去
く 控 果におぬる
修時 一 安んじ 家
のしよと云 持考あり
修時 一 使用あり

了此と節 有る者
一 一 一 一
市馬老 櫻
積